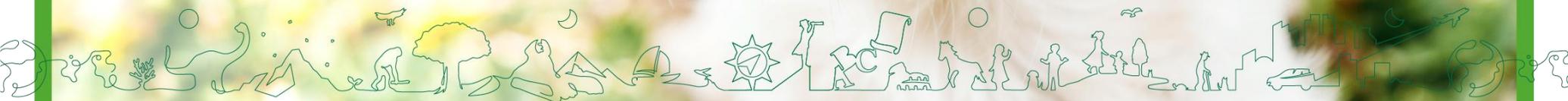


2025年3月期
第1四半期

決算補足 説明資料

8月7日



証券コード：8715

全体目次

1

第1四半期 決算概要

2

重点施策の進捗状況

3

APPENDIX

1

第1四半期 決算概要

1. 全体サマリー(経常収益・経常利益)
2. 損益計算書 サマリー
3. 経常費用・利益のパラメータ
4. 経常利益の増減要因(対前年同期差分析)
5. 貸借対照表 サマリー





1. 全体サマリー(経常収益・経常利益)

経常収益

16,519 百万円

前年同期比**11.1%**増(1,651百万円増)
うち、保険引受収益は前年同期比**7.7%**増(1,024百万円増)

のれん償却前
経常利益

1,682 百万円

前年同期比**34.3%**増(429百万円増)

経常利益

1,620 百万円

前年同期比**34.8%**増(418百万円増)

堅調なペット飼育需要を新規契約獲得に確実に繋げ、業務効率化の推進等により増収増益

■ 経常収益

- ペット保険の新規契約件数は**5.7**万件、同保有契約件数は**121.3**万件(**7.1%**増)と**堅調な伸長を継続**
- 保険事業以外の、その他経常収益は**1,871**百万円(**32.3%**増)と**順調に拡大**
- 資産運用収益は**295**百万円(**134.3%**増)となり、不透明な市場環境下で機動的な資産運用を図り、**計画達成ペースで進捗**

■ 経常利益

- 契約獲得コストの改善や、業務運営の効率化により、**大幅増益、対計画も達成ペースの進捗**

2. 損益計算書 サマリー



(百万円)

	24年3月期 1Q	25年3月期 1Q	対前年同期比 増減率
経常収益	14,868	16,519	11.1 %
保険引受収益	13,326	14,351	7.7 %
資産運用収益	126	295	134.3 %
その他経常収益	1,414	1,871	32.3 %
経常費用	13,666	14,899	9.0 %
保険引受費用	9,265	10,016	8.1 %
・正味支払保険金	(7,346)	(8,045)	9.5 %
・損害調査費	(268)	(277)	3.5 %
・諸手数料及び集金費	(1,291)	(1,330)	3.0 %
・支払備金繰入額	(91)	(154)	68.2 %
・責任準備金繰入額	(268)	(208)	△ 22.1 %
(うち未経過保険料)	(448)	(532)	18.6 %
(うち異常危険準備金)	(△180)	(△323)	- %
資産運用費用	-	-	- %
営業費及び一般管理費	3,918	4,183	6.8 %
その他経常費用	482	699	45.1 %
のれん償却前経常利益	1,252	1,682	34.3 %
経常利益	1,201	1,620	34.8 %
純利益	811	1,111	37.0 %



2. 損益計算書 サマリー

(参考)アニコム損保 保険重要指標

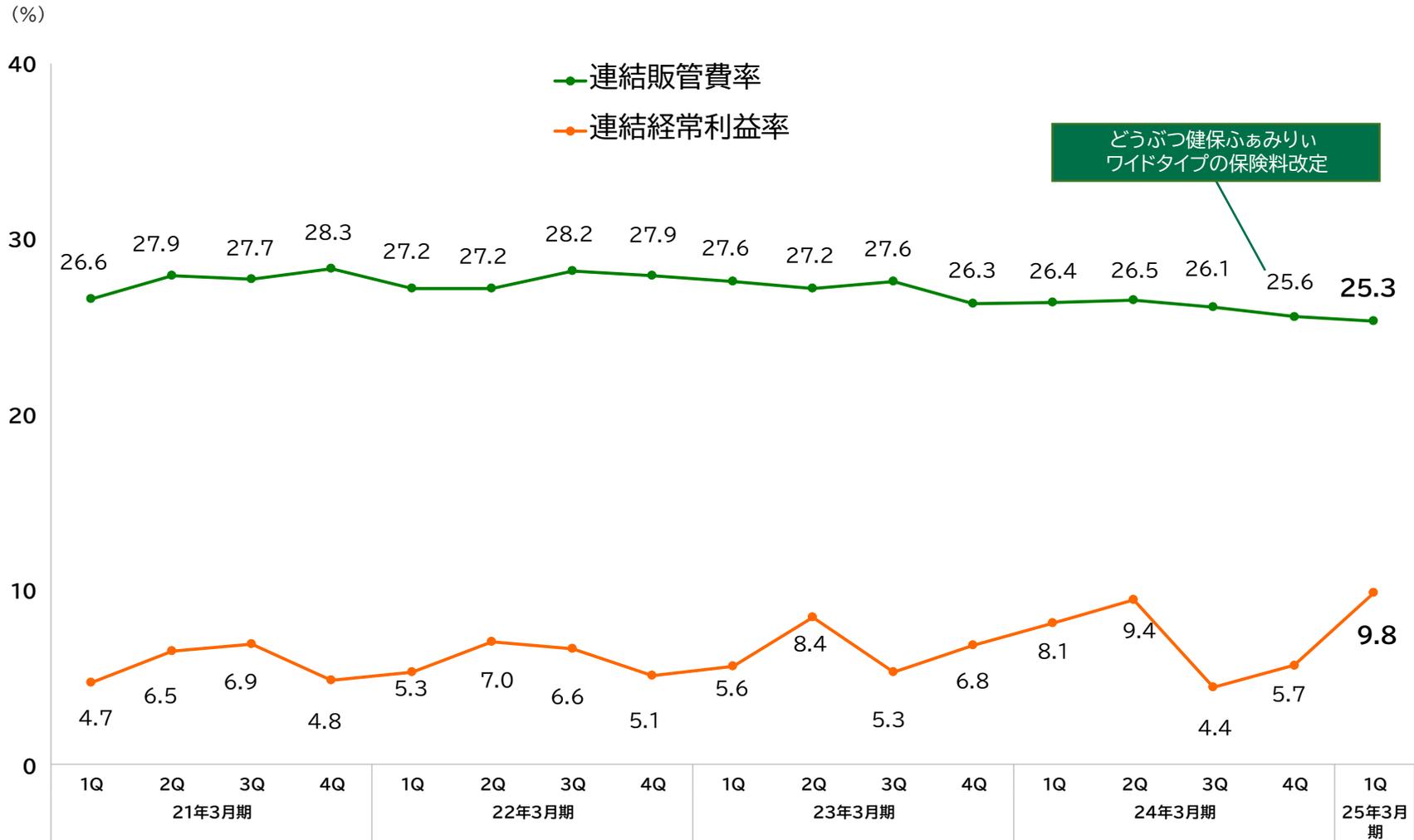
	24年3月期 1Q	25年3月期 1Q	(百万円) 対前年同期比 増減率
既経過保険料	12,927	13,884	7.4%
発生保険金(損害調査費含む)	7,705	8,476	10.0%
E/I損害率①	59.6%	61.1%	1.5pt
既経過保険料ベース事業費率②	33.8%	32.8%	△1.0pt
(内、諸手数料及び集金費率)	(10.3%)	(10.0%)	(△0.3pt)
コンバインド・レシオ(既経過保険料ベース)①+②	93.4%	93.9%	0.5pt



3. 経常費用・利益のパラメータ

※販管費率、経常利益率(連結)

※ アニコム損保単体の経営パラメータ(損害率・事業費率・契約件数)はAPPENDIX参照



どうぶつ健保ふぁみりい
ワイドタイプの保険料改定

4. 経常利益の増減要因(対前年同期差分分析)

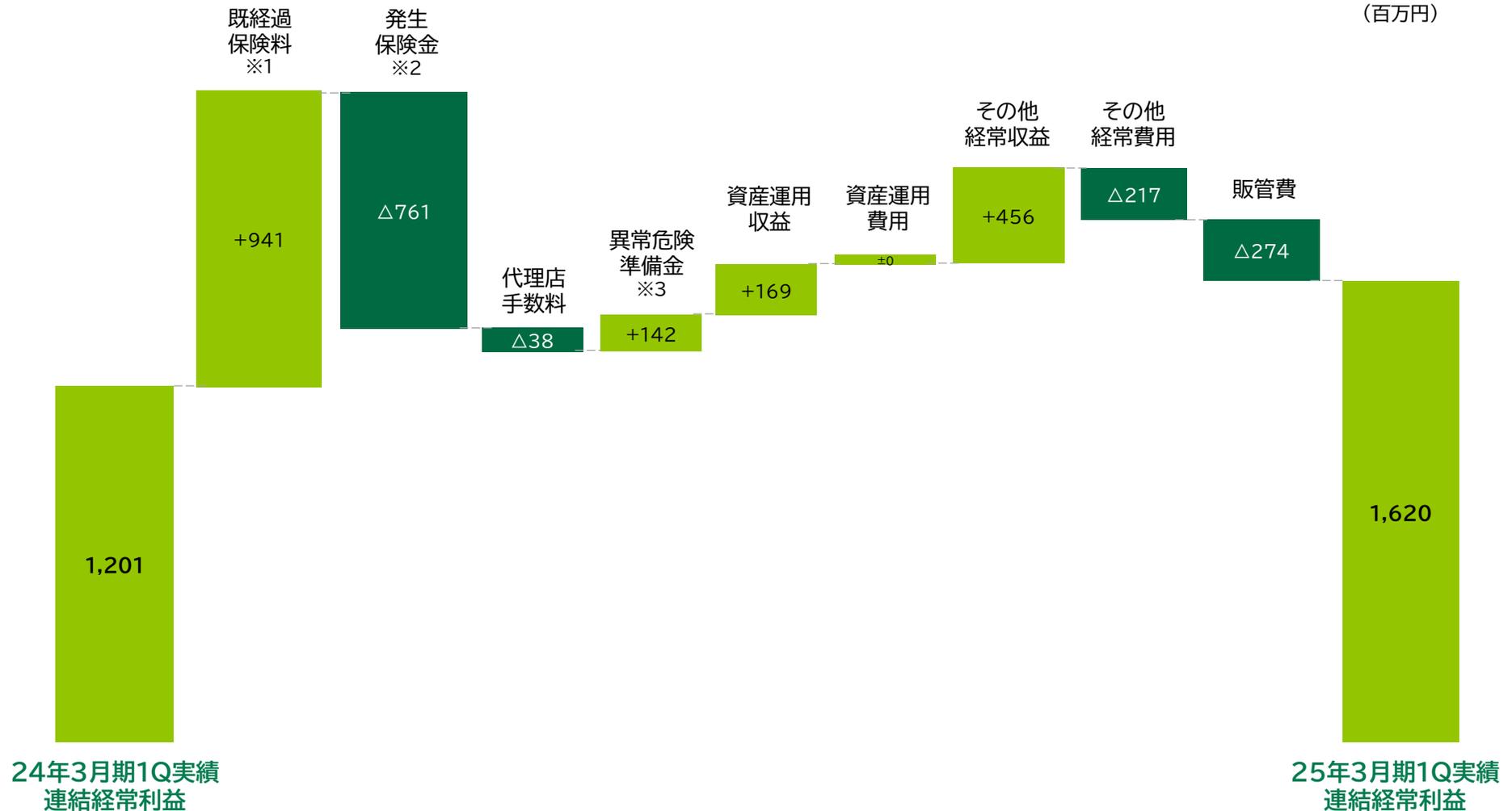


※1 既経過保険料 = 保険引受収益 - 普通責任準備金繰入額(未経過保険料)

※2 発生保険金 = 正味支払保険金 + 支払備金繰入額

※3 異常危険準備金 = 異常危険準備金繰入額 + 異常危険準備金戻入額

(百万円)





5. 貸借対照表 サマリー

	24年3月期末	25年3月期 1Q	対前年末比 増減率
資産合計	66,357	65,882	△ 0.7 %
現金及び預貯金	23,879	21,604	△ 9.5 %
有価証券	27,510	26,666	△ 3.1 %
固定資産	6,925	6,988	0.9 %
その他資産	8,041	10,623	32.1 %
負債合計	36,204	35,669	△ 1.5 %
保険契約準備金	24,551	24,914	1.5 %
うち支払備金	3,245	3,399	4.7 %
うち責任準備金	21,305	21,514	1.0 %
社債	5,000	5,000	— %
その他負債	6,653	5,755	△ 13.5 %
純資産合計	30,152	30,212	0.2 %
株主資本	31,144	31,479	1.1 %
評価・換算差額等	△ 1,248	△ 1,510	— %
その他	256	242	△ 5.2 %
負債・純資産合計	66,357	65,882	△ 0.7 %

2 重点施策の進捗状況

1. 重点施策の進捗状況（保険事業・資産運用・その他）
2. 重点施策の進捗状況（シナジー創出事業）
3. トピックス





1. 重点施策の進捗状況 (保険事業・資産運用・その他)

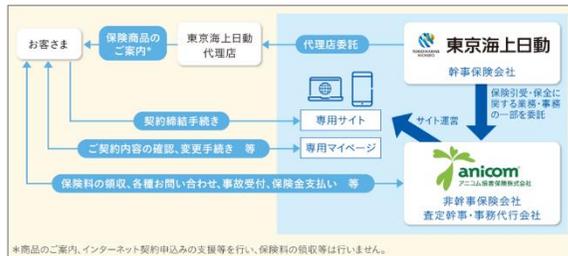
保険事業

新規・保有契約の状況

- ▶ 新規契約獲得件数は4-6月で5.7万件超
24年6月末の保有契約件数は121万件を突破

販売チャネルの拡大・強化

- ▶ 東京海上日動とペット保険を共同で販売



- ▶ ソニー損保とペット保険商品の共同開発に向け業務提携契約を締結
- ▶ アクサダイレクトとペット保険事業で業務提携契約を締結

商品・サービスの拡大

- ▶ オンライン保険金請求サービスの提供開始により、窓口精算、LINE請求とあわせて利便性が向上
- ▶ 「どうぶつ健活」の堅調な増加が寄与し、4-6月の継続率は88.1%と安定して高いレベルで推移

資産運用

- ▶ 柔軟かつ機動的な資産運用により、計画を達成
インカム収益を着実に積上げながら、計画達成のペースで進捗

その他

- ▶ 「従業員一人一特許戦略」の推進
24年6月末 発明者数131名 (20年12月末 発明者数13名)

【分野別 特許件数】 ※24年6月末時点

	画像認識AI	遺伝子 フード・腸内細菌叢	再生医療	その他	合計
特許件数	7	6	3	3	19

※最新の画像認識AI特許については、P15のトピックスに掲載



2. 重点施策の進捗状況 (シナジー創出事業)

産まれる前から

川上



日々の暮らし

川中



治らないを治す

川下



ブリーディングサポートの強化

- 動物愛護法の改正も踏まえ、各施策を強力的に推進中

マッチングサービス事業の強化

- 需要の好調が継続し、『みんなのブリーダー』『みんなの子猫ブリーダー』の成約数が順調に伸長



マッチングサービス事業(シムネット)24年度1Q業績

■売上高 : 729百万円 (前年度 509百万円)

■経常利益 : 146百万円 (前年度▲2百万円)

注)経常利益はのれん償却後

健診+口腔・腸内ケア商材の事業化

- 4-6月の「どうぶつ健活」申込累計 5.9万件超
- 「どうぶつ健活」を通じた口腔・腸内ケア商材のテストマーケティング
- 各地で腸内フローラの多様性を高める「7Days Food」の試食会を開催



【お客様の声】

- ・普段は試食を絶対食べない子なのに、すぐに食べたので購入します
- ・ごはんにすぐ飽きてしまうので、毎日違った味をあげられるのが魅力

●MA-T®を利用した 歯みがきジェル「CRYSTAL JOY」のグループ動物病院における販売促進



動物医療関連(予防～一般・再生医療)

- 再生医療事業
 - 再生医療を用いた「治療法」「予防法」の確立
 - QOLの改善へ向けた研究

■幹細胞投与を実施した犬の一例(15歳 柴犬)
 【投与前】 ぎこちなく、ゆっくりと歩行
 【投与後】 全ての足を使い自然に歩行



- 動物病院事業 24年度6月末 57病院

■お客様アンケート結果(2週間継続)

- ・約80%が口臭の改善を実感
- ・約30%が色素沈着の薄れを実感
- ・約30%が歯石の薄れを実感



3. トピックス① データ活用による新たな価値の創造

『がんを含む全ての疾病予防に係る共同研究』募集を開始

犬において腸内細菌叢から歯周病関連菌が検出された。かつ検出群ではほぼ全ての疾病の有病率が上昇

■ 本調査の概要

当社グループが実施した犬の口腔内・腸内環境とがん発症リスクの関係における調査結果を受け、『がんを含む全ての疾病予防に係る共同研究』の参加者募集を開始。共同研究では、口腔ケアを通じたがん等の予防の可能性を検証し、ペットは勿論、ヒトにおけるがんの予防に向けた研究・啓発に取り組むとともに、口腔ケア以外の取組みも推進し、がんを含む全ての疾病の予防を目指す。

本調査において、犬の口腔内・腸内環境は、がんを含むほぼ全ての疾病の有病率と密接な関係があることが明らかとなった。本調査結果は、7月20日に開催された「第78回NPO法人日本口腔科学会学術集会」にて発表を行った。



調査TOPICS

1. 犬の腸内細菌叢からの歯周病関連菌の検出割合は **12%!** 加齢とともに上昇する。

※本調査の調査対象犬は2018年12月～2022年12月に実施した49,075頭、2021年3月～2022年12月に実施した1,170頭の合計50,245頭です。調査対象犬のうち、歯周病関連菌が検出されたのは6,024頭です。歯周病関連菌の検出割合は12%です。

2. 腸内における歯周病関連菌の存在は、**73%の疾患の有病率を上昇させる。**

※本調査の調査対象犬は2018年12月～2022年12月に実施した49,075頭、2021年3月～2022年12月に実施した1,170頭の合計50,245頭です。調査対象犬のうち、腸内に歯周病関連菌が検出されたのは36,117頭です。腸内に歯周病関連菌が検出された犬のうち、がんを含む疾患の有病率が上昇した割合は73%です。

3. 腸内細菌の多様性が低下するほど、**疾病の有病率が上昇する。**

※本調査の調査対象犬は2018年12月～2022年12月に実施した49,075頭、2021年3月～2022年12月に実施した1,170頭の合計50,245頭です。調査対象犬のうち、腸内細菌の多様性が低下した犬のうち、がんを含む疾患の有病率が上昇した割合は73%です。

4. 腸内細菌の多様性低下の原因に、**歯周病罹患が存在した。**

※本調査の調査対象犬は2018年12月～2022年12月に実施した49,075頭、2021年3月～2022年12月に実施した1,170頭の合計50,245頭です。調査対象犬のうち、腸内細菌の多様性が低下した犬のうち、歯周病罹患が存在した割合は73%です。

5. 腸内環境の善悪および歯周病関連菌の有無が、**腫瘍性疾患リスクにも関係する。**

※本調査の調査対象犬は2018年12月～2022年12月に実施した49,075頭、2021年3月～2022年12月に実施した1,170頭の合計50,245頭です。調査対象犬のうち、腸内環境の善悪および歯周病関連菌の有無が、腫瘍性疾患リスクにも関係する割合は73%です。

● 共同研究にご参画を表明された先生のコメント



阪井 丘芳 先生(大阪大学 大学院歯学研究科 顎口腔機能治療学講座 教授)

犬にとって歯周病は避けて通れない病気で、犬は歯周病の自然発生モデル動物といえます。歯周病は、可視化が困難な微小慢性炎症であり、微小な穴から菌や毒素、炎症タンパク質が血管を介して、全身に広がります。予備実験で、歯周病細菌を有する犬は、がんを含む複数の疾患に罹患しやすいというデータを得ており、MA-T®を用いた口腔ケアで歯周病細菌を抑制し、疾患予防を目指す研究が大規模に開始されます。動物と国民の健康推進を目指した事業、研究者として今後注目していきたいと思いました。

3. トピックス② データ活用による新たな価値の創造



シミックとペットに関する情報の一元管理等に向け基本合意書を締結

■合意の背景

シミックが保有する医療ヘルスケア分野におけるサービス提供ノウハウ等と、当社が保有する獣医療を含むペット業界におけるノウハウ等とを組み合わせることにより、獣医療の更なる発展と、ペットとその飼い主、かかりつけ医および専門医間の円滑なコミュニケーションの実現に貢献

■具体的な検討事項

- ① 獣医療のてんかん領域治療の発展に資するサービスの実現
- ② 動物用医薬品開発支援における新たなサービスの実現



CareSix、Cho & Company と共同研究を開始

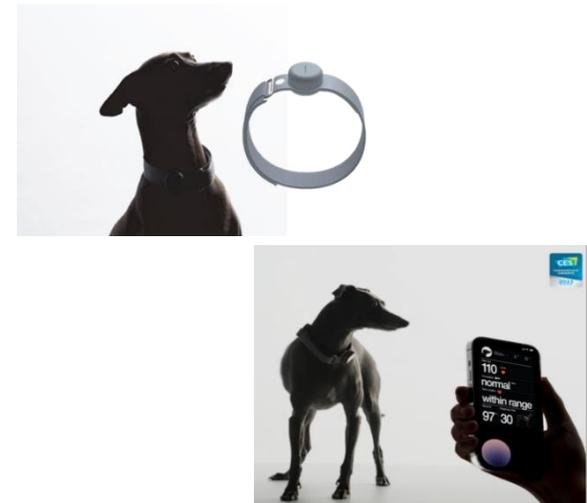
犬向けスマートデバイスを用いて健康管理に役立つアルゴリズム構築を目指す

■概要と背景

Cotons AI「Sense 1」を用いて、主にブリーディング施設にて成犬および子犬の生体データや活動状況のデータを収集。このデータおよび動画カメラや行動観察による活動情報を、アニコムが保有する機械学習技術等を用いて解析し、健康状態の悪化や病気の予兆を察知することで、犬の健康管理に役立つアルゴリズムの構築を目指す。

■Cotons AI「Sense 1」とは

CareSixが開発する犬向け首輪型スマートデバイス。心拍数や呼吸数、体温、活動量等を計測し、スマートフォン等で利用可能な専用アプリやウェブブラウザを用いてモニタリングが可能。世界最大級の家電・IT見本市「CES 2023」で、革新賞(Innovation Award)を受賞。





3. トピックス③ AI活用による新たな価値の創造

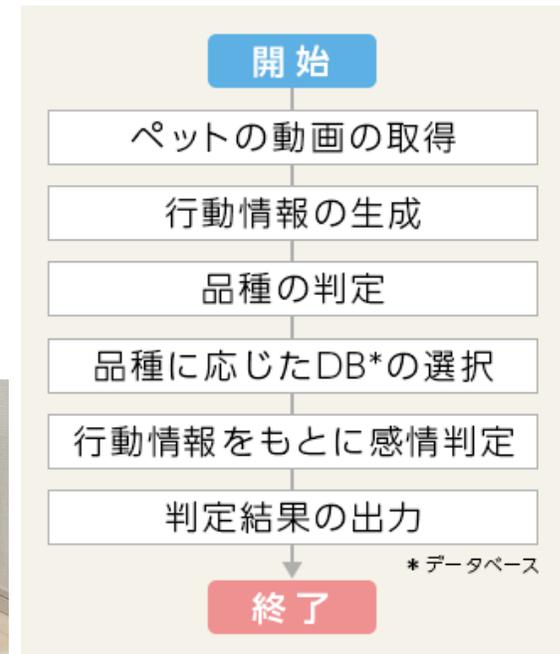
AIを用いて「ペットの動画から感情を判定する」システムの特許を取得

■ 開発の背景

ペットもそれぞれに個性や感情があり、ペットの感情を飼い主が適切に理解できれば、お互いのコミュニケーションがより円滑で深いものとなり、すれ違いやミスマッチ、ひいては社会問題でもある飼育放棄の解消にも繋がる可能性がある。しかし、ペットは人間と同じ言葉を話すことができないため、ペットが何を考え、どのような感情を抱いているのかを人間が正しく理解するのは容易ではない。本システムにより、ペットと飼い主がより深いコミュニケーションを図れるようになることが期待できる。



本システムを用いた感情判定の流れの一例





3. トピックス④ 資本政策・株主還元

自己株式の取得状況

■ 概要

- 2023年5月25日、SMRの算出誤りに起因する約 40 億円を自己株式取得に充当する方針を決定
- 2023年度は 10 億円を上限として、2023年9月21日までに自己株式の取得を完了
- 2024年度は残額の 30 億円を上限として、2024年5月27日～2025年3月31日の期間で取得予定
- **2024年6月末現在、約3.4億円を取得済**

■ 中期経営計画 資本政策方針



株主還元(配当性向・DOE)

2021年度 実績 配当性向 **9.6%**(増配後) > 2024年度 目標 **配当性向 20%水準** > 2030年度 ビジョン 配当性向→株主資本配当率(DOE)での開示へ

3

APPENDIX

1. 主要経営パラメータ

2. アニコム損保単体：経常収益のパラメータ (ペット保険新規契約獲得件数／保有契約件数の推移)

3. アニコム損保単体：経常費用のパラメータ (損害率(E/I)、既経過保険料ベース事業費率)





1. 主要経営パラメータ

	24年3月期 1Q	24年3月期末	25年3月期 1Q	対前年同期比		対前期末比		25年3月期末 (5月9日予想)
				件数	率	件数	率	
① 保有契約数	1,132,856 件	1,193,560 件	1,213,737 件	80,881 件	7.1 %	20,177 件	1.7 %	1,280,000 件
② 新規契約数	55,161 件	223,289 件	57,986 件	2,825 件	5.1 %	-	-	230,000 件
③ 継続率	88.1 %	88.2 %	88.1 %	-	-	-	-	88.2 %
④ 保険金支払件数	1,072 千件	4,381 千件	1,116 千件	43 千件	4.0 %	-	-	4,800 千件

	24年3月期 1Q	25年3月期 1Q	対前年同期比 増減	25年3月期末 (5月9日予想)
⑤E/I損害率	59.6 %	61.1 %	1.5 pt	60.9 %
⑥既経過保険料ベース事業費率	33.8 %	32.8 %	△1.0 pt	32.3 %
⑦コンバインド・レシオ(既経過保険料ベース)	93.4 %	93.9 %	0.5 pt	93.2 %

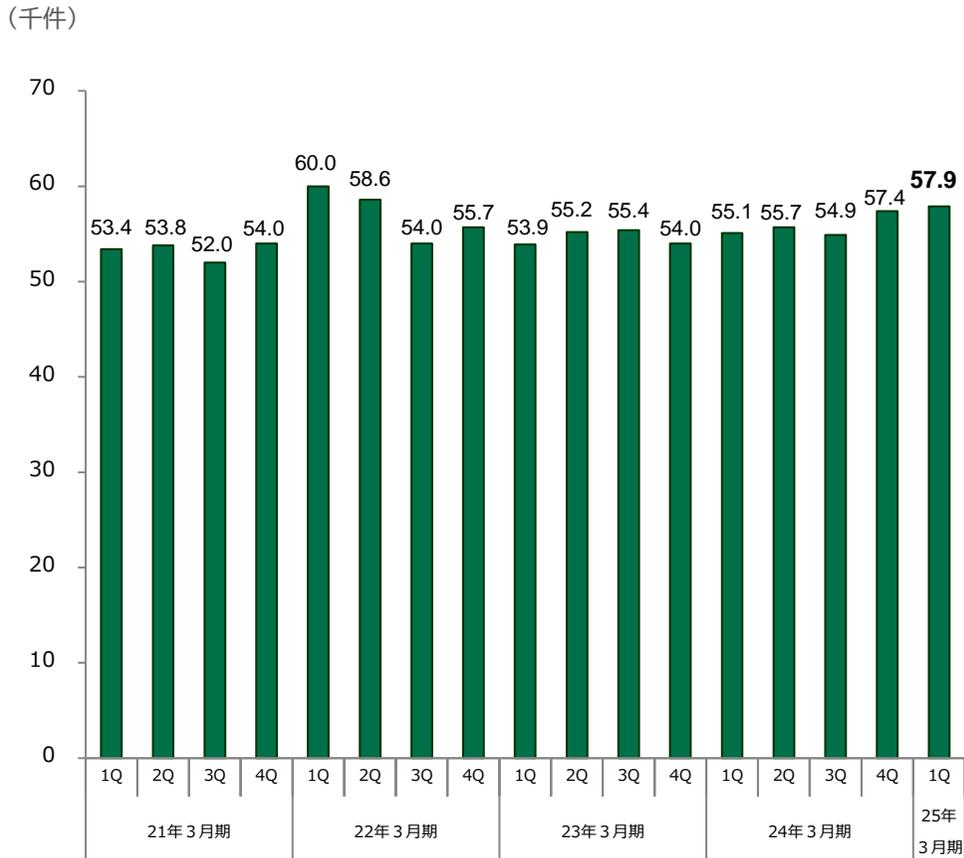
	24年3月期末	25年3月期 1Q	対前期末比 増減
⑧単体ソルベンシー・マージン比率※	333.7 %	332.8 %	△0.9 pt

	24年3月期 1Q	25年3月期 1Q	対前年同期比 増減
⑨どうぶつ健活(腸内細菌叢検査)申込数	55,281 件	59,431 件	7.5 %
⑩対応動物病院数	6,830 病院	6,908 病院	1.1 %
⑪遺伝子検査検体数	16,798 件	18,014 件	7.2 %

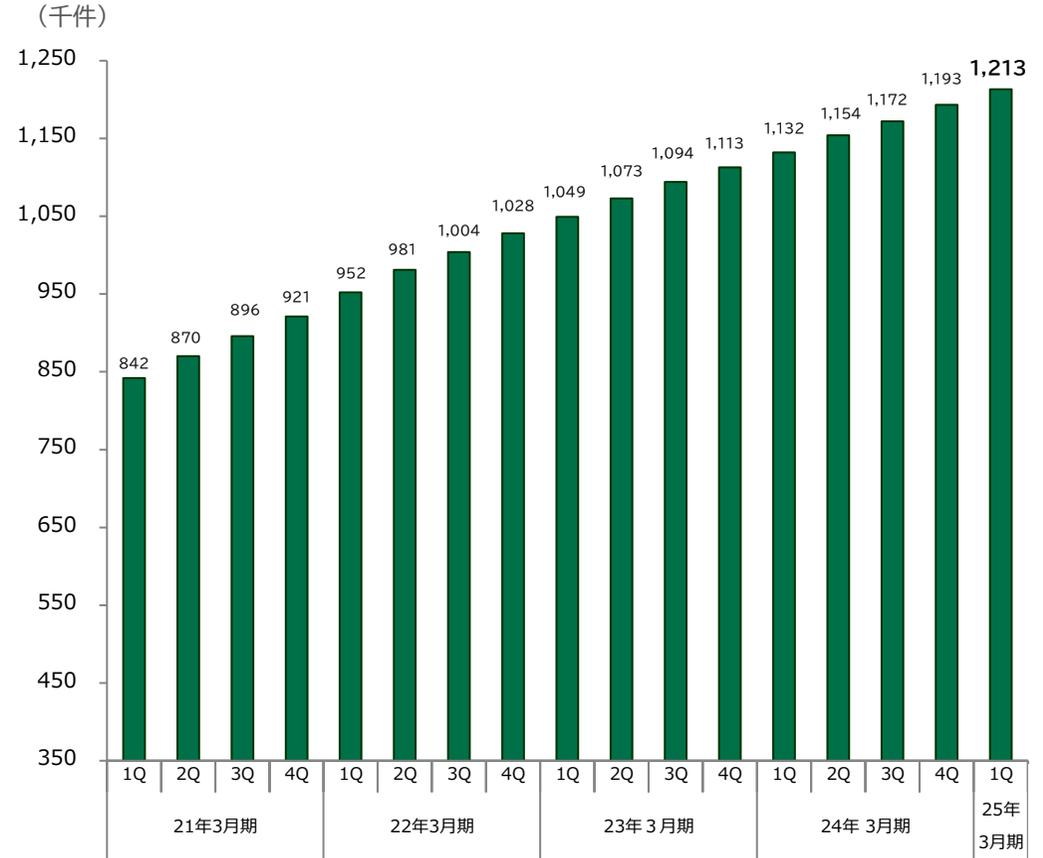


2. アニコム損保単体:経常収益のパラメータ

新規契約獲得件数の四半期推移



保有契約件数の四半期推移





3. アニコム損保単体:経常費用のパラメータ

【参考情報】

15年3月期 1Q

- 保険料改定
- ・平均12%の改定

15年3月期 3Q

- 限度日数付き新商品
- 健康割増引制度導入

18年3月期 2Q

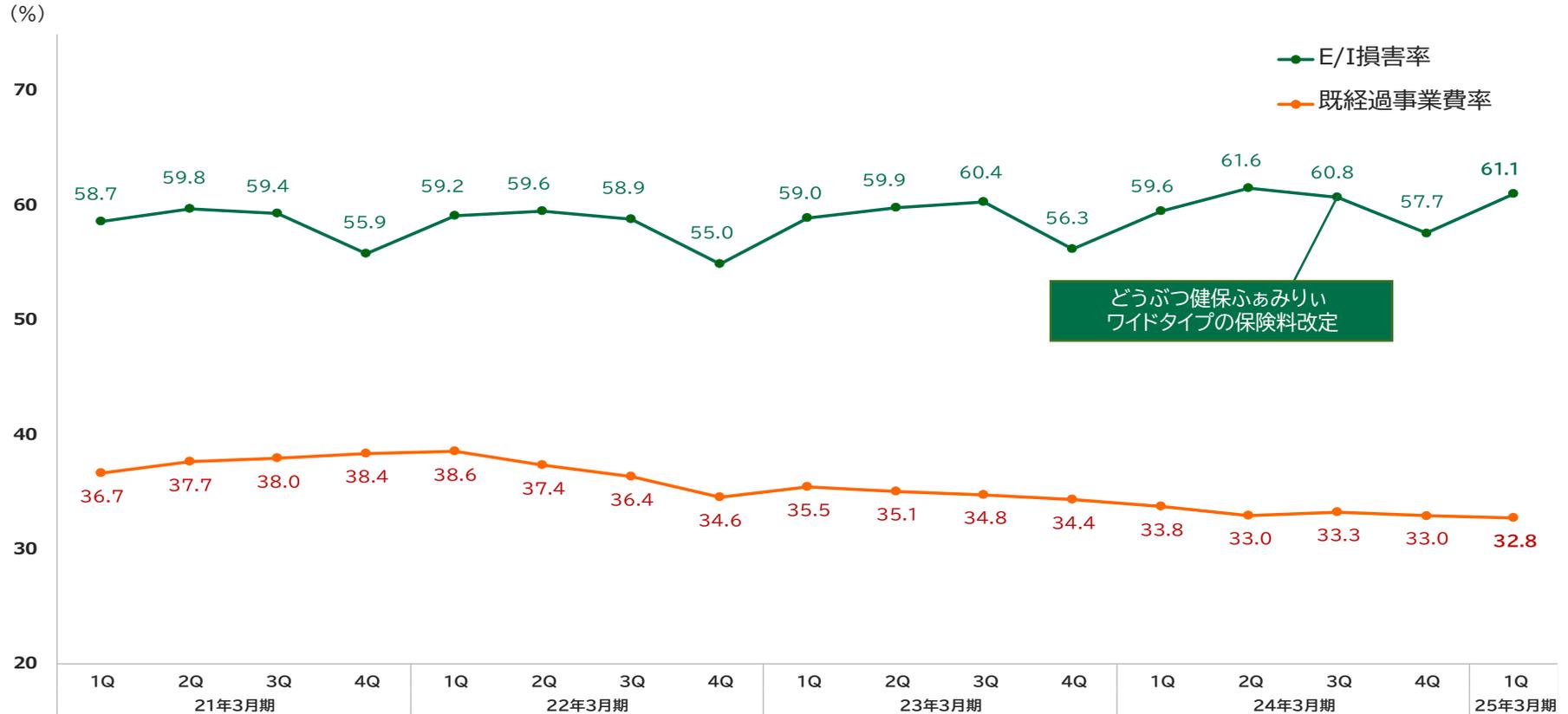
- 保険料率改定
- ・8歳以上の保険料改定

19年3月期 3Q

- 「どうぶつ健活」の導入
- 保険料改定
- ・保険料・品種クラスの改定

注1) 下表は、四半期毎の平均値を記載しておりますので、当期累計平均とは異なります。

注2) 事業費率は「既経過保険料ベース事業費率」(損保事業費÷既経過保険料)を表しております。



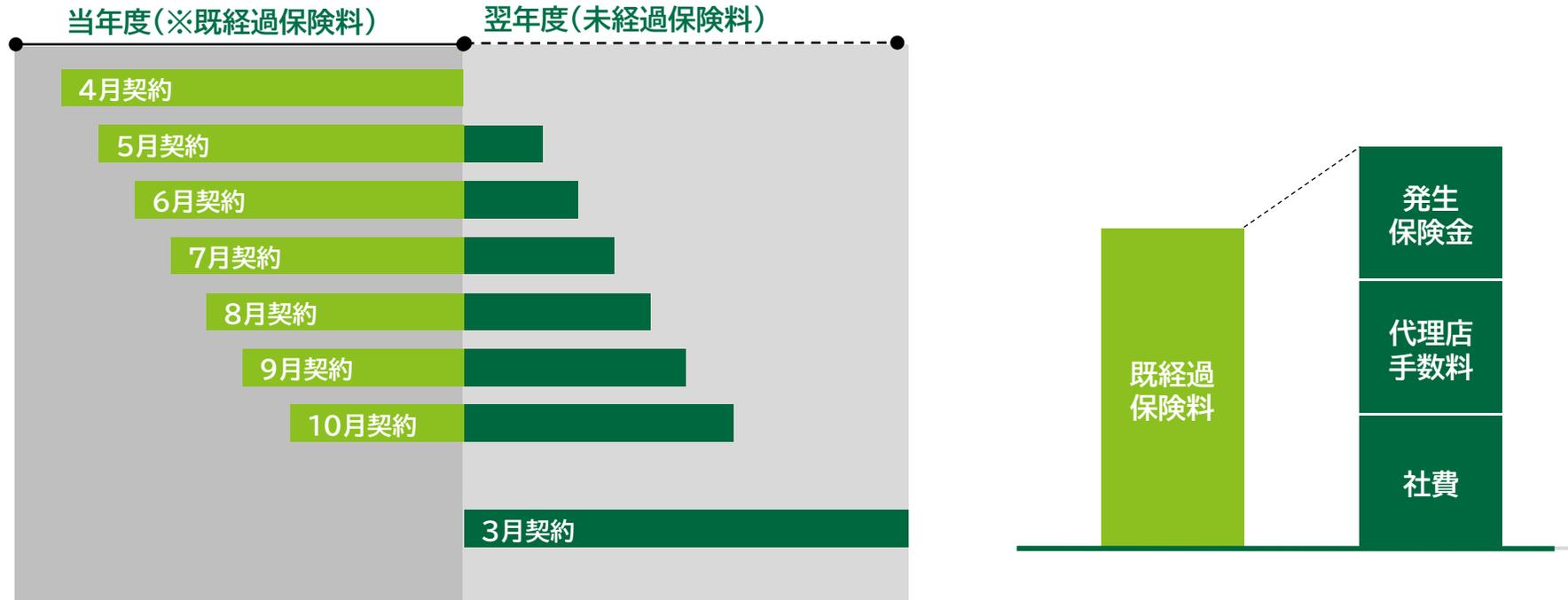
どうぶつ健保ふぁみりい
ワイドタイプの保険料改定



(参考) 保険会計が経常損益に与える影響

1. 保険料の増加が経常損益に与える影響(日本の損保会計ベース)

一般的に、保険料の増加は経常収益の増加に寄与しますが、事業年度における保険料の未経過期間部分については、普通責任準備金(未経過保険料)として次年度に繰り越すことが法令により定められています。一方で、発生保険金、代理店手数料、社費等の費用については、保険料の増加に対応する費用を含め、これらの費用が発生する年度において計上することとされています。したがって、保険料の増加に伴い増収となる場合であっても、当該費用が既経過保険料を超過する場合は、当該年度の経常損益にマイナスの影響を与えることとなります。



2. 異常危険準備金が経常損益に与える影響(日本の損保会計ベース)

- ・異常危険準備金は、巨大災害等が生じた場合の保険金の支払いに備えるために法令により積み立てておくこととされているものであり、各保険会社が每期積み立てを行っているものです。
- ・異常危険準備金は、正味損害率(※)が50%を超えると取崩し(費用のマイナス)が行われます。(※)正味支払保険金を正味収入保険料で除した割合です。



お問合せ先

アニコム ホールディングス株式会社 経営企画部 (IR事務局)

東京都新宿区西新宿8-17-1 住友不動産新宿グランドタワー39階

www.anicom.co.jp

本資料に関する注意事項

本資料は、現在当社が入手している情報に基づいて、当社が本資料の作成時点において行った予測等を基に記載しておりますため、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。

これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、一定のリスクや不確実性を内包しております。そのため、将来の実績が本資料に記載された見通しや予測と大きく異なる可能性がある点をご承知おきください。従いまして、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。

なお、本資料は情報提供のみを目的としたものであり当社が発行する有価証券への投資の勧誘・募集を目的としたものではありません。